

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 大腿骨近位部骨折における在院日数を長期化させている要因とフレイルの関係性についての検討』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 4A 病棟 職位・氏名 看護師・酒向茜

【試料・情報の利用目的】

取得した情報は、東邦大学医療センター大橋病院整形外科で大腿骨近位部骨折の手術をした患者様におけるフレイル有病率とその重症度及び在院日数の長期化する要因を調べることを目的とした研究に利用します。フレイルとは「加齢により心身が老い衰えた状態」のことです。しかしフレイルは、早く介入して対策を行えば元の健常な状態に戻る可能性があります。高齢者のフレイルは、生活の質を落とすだけでなく、さまざまな合併症も引き起こす危険があります。

当院では 2020 年に骨粗鬆症リエゾンチーム(osteoporosis liaison service:以下 OLS チーム)を導入し、入院中の大腿骨近位部骨折患者の総合的なチームカンファレンスを実施しています。チーム活動は早期治療介入や多職種連携へ繋げることで入院期間の短縮化と合併症発症を軽減できると考えています。

本研究は、2020 年 4 月から 2024 年 3 月までの 4 年間に当院に大腿骨近位部骨折で入院をした患者さん約250名を対象に診療録(カルテ)から抽出したデータを解析します。これらの情報を分析することで、当院の大腿骨近位部骨折患者さんの入院期間と遅延理由がフレイルと関係性があるのかを調べる研究です。この研究で得られる成果は、今後の OLS チームのカンファレンスの活性化に繋がり、寝たきりや術後合併症の発生の予防につながる可能性があります。

【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

【研究に用いられる試料・情報】

- ・個人情報(年齢・病歴、内服状況)
- ・入院期間や手術待機期間などの治療期間がわかる情報 等

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2025年10月より利用を開始します

【試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

他機関への提供は行いません。

【試料・情報の取得方法】

対象者:2020年4月～2024年3月までに東邦大学医療センター大橋病院
整形外科において、大腿骨近位部骨折で入院した患者の方、244名
方法:診療記録(カルテ)から抽出したデータを解析します。

【研究組織】

代表施設名:東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者:酒向 茜 役職:看護師

【利用する者の範囲】

代表施設名:東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者:酒向 茜 役職:看護師

【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

代表施設名:東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者:酒向 茜 役職:看護師

本研究に関してご質問のある方、情報を研究に利用することを承諾されない方は、2025年10月31日までに下記へご連絡下さい。対象となる患者さんのご家族・ご親族からの申し出にも対応します。申し出のあった方の情報は、利用はしません。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 4A 病棟

職位・氏名 看護師・酒向 茜

電話 03-3481-7058 内線 3411